

# 東洋炭素 2008年5月期 中間決算説明会

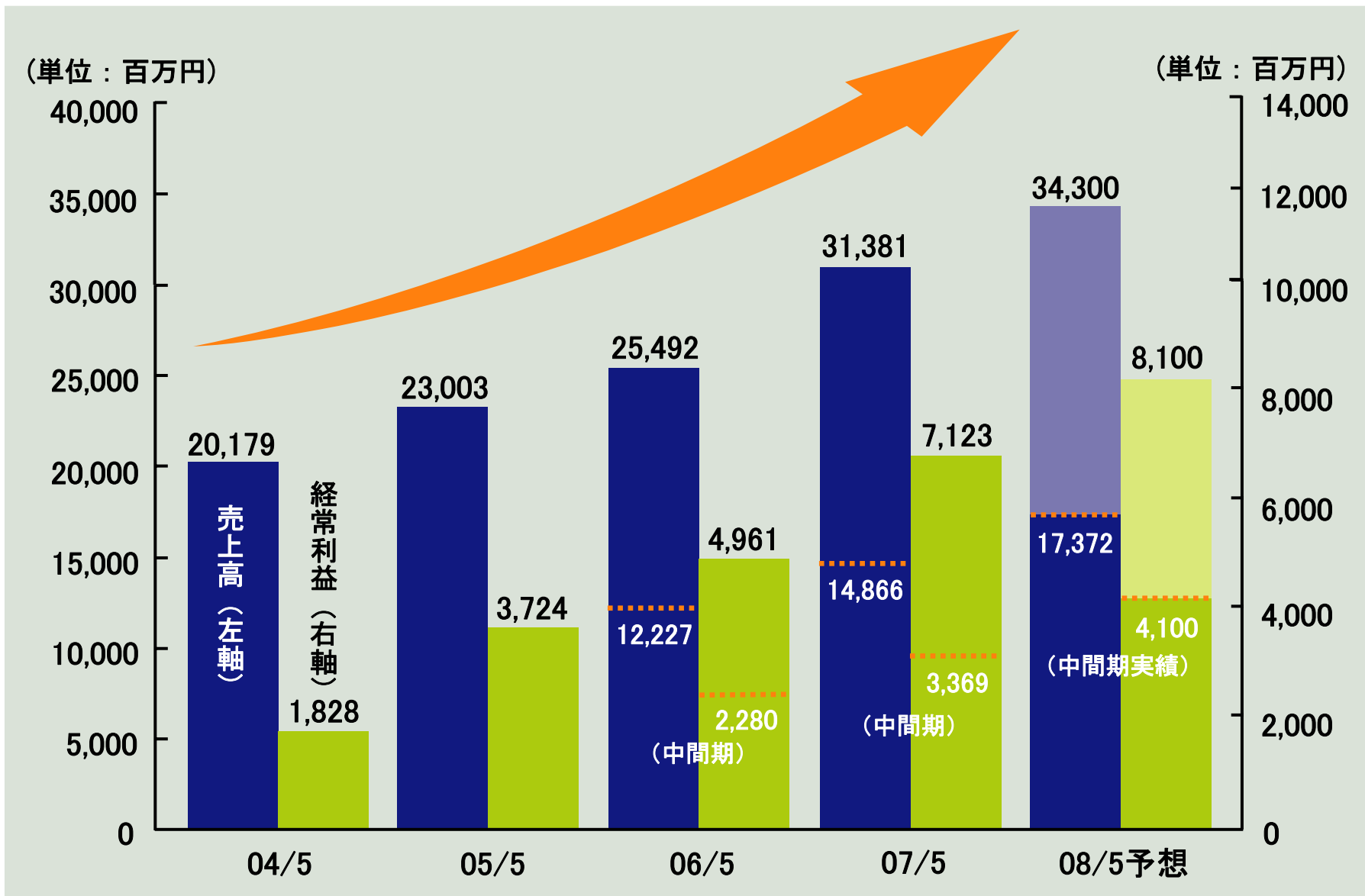
2008年1月

東洋炭素株式会社

1. 2008年5月期中間決算の概要（連結）	P. 3
1-1. 業績推移（連結）	P. 4
1-2. 2008年5月期中間期業績（連結）	P. 5
1-3. 製商品・分野別概況（連結）	P. 6
1-4. 地域別概況（連結）	P. 9
1-5. 2008年5月期中間貸借対照表（連結）	P. 10
1-6. 2008年5月期中間キャッシュ・フロー計算書（連結）	P. 11
2. 2008年5月期業績予想（連結）	P. 12
2-1. 2008年5月期業績予想（連結）	P. 13
2-2. 将来への投資（設備投資・減価償却費・研究開発費）	P. 14
2-3. 主要経営指標の推移（連結）	P. 15
3. トピックス	P. 16
3-1. 活況の太陽電池市場	P. 17
3-2. 生産能力の増強	P. 20
3-3. 本社移転／国際太陽電池展PVEXP02008に出展予定	P. 21

# 2008年5月期中間決算の概要(連結)

# 1-1. 業績推移 (連結)



# 1-2. 2008年5月期中間期業績(連結)

(単位:百万円)

	07/5 中間期	08/5 中間期	増減率
売上高	14,866	17,372	16.9%
営業利益	3,286	4,343	32.2%
(売上高営業利益率)	(22.2%)	(25.0%)	
経常利益	3,369	4,100	21.7%
税引前利益	3,755	4,085	8.8%
中間純利益	2,014	2,491	23.7%
1株当たり 中間純利益	151円17銭	※ 119円75銭	

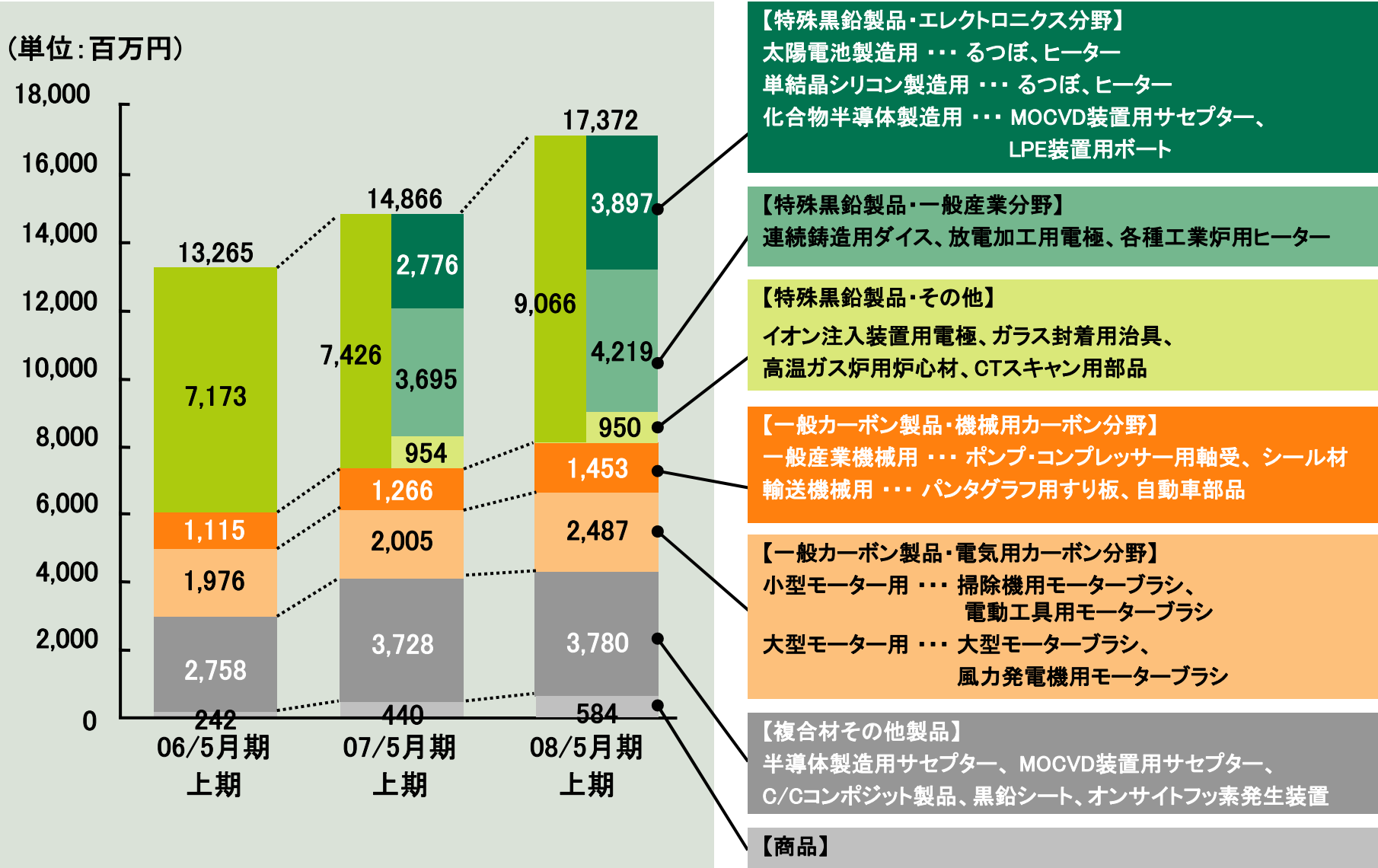
## ポイント

- 等方性黒鉛の生産能力増強を背景に、太陽電池を始めとする各用途において国内外の旺盛な需要を取り込むとともに、高付加価値化と成長分野へのシフトを推進。
- 中国新拠点の本格稼働も寄与し、前年同期比16.9%の増収。

- 上記増収に伴う限界利益増に加え、生産性改善ならびに増産に伴うトータルコストダウン等により、減価償却費の大幅増(529百万円)と人件費等の経費増等をこなし前年同期比32.2%の増益。

※2007年6月1日をもって1:1.5の株式分割を実施

# 1-3. 製商品・分野別概況(連結) ①売上高推移



## 特殊黒鉛製品

### 【エレクトロニクス分野】

- 世界的な環境意識・省エネ志向の高まりを受けて、太陽電池製造用途の需要が急速かつ大幅に拡大。欧州・米国での太陽電池普及を背景に、世界の生産基地として集積が進む中国を始めとしてアジア・欧州および日本の各地域で需要が伸長。ネックとなっていた原料ポリシリコンの増産も後押しし、需要拡大は今後一段と加速する見込み。
- 単結晶シリコン製造用途は、大手ウエハーメーカーにおける300mmウエハーの積極的な生産能力増強を受けて引き続き需要旺盛。200mm以下の小口径ウエハーはコスト競争力不足も含めて需要は縮小に転じており、ウエハーの大口径化の流れは更に加速。当社が強みとする大型材を中心に引き続き高水準で推移する見込み。
- これらに連動し、ポリシリコン製造用途においても需要が拡大、今後更に加速する見込み。



るつぼ



ヒーター

### 【一般産業分野】

- 超微粒子構造の高機能黒鉛材を武器に金型製造用の放電加工電極が特に海外で伸長。
- 連続鋳造用を始めとする冶金関連需要、ならびに工業炉関連需要が順調に増加。底堅い設備投資を背景に引き続き堅調に推移する見込み。



放電加工用電極



連続鋳造用ダイス

## 一般カーボン製品

### 【機械用カーボン分野】

- 一般産業機械用途は、底堅い設備投資を背景に軸受け・シール材を始め、特にエコ対応給湯器関連需要(ポンプ・圧縮機の軸受け)等が引き続き順調に拡大。今後も安定成長の見込み。
- パンタグラフ用すり板は、既存大手顧客の新型車両導入等による更新需要に加えて、一部大手私鉄・新交通での正式採用が決まるなど、着実に商圏を拡大。中期的には新幹線向けおよび海外にも注力。



ベアリング



パンタグラフ用すり板

### 【電気用カーボン分野】

- 主力の家電モーター用小型カーボンブラシは、特に中国現地法人を核とした中国内増加需要の積極取り込みと、電動工具・洗濯機向けの拡販が進捗しグローバルベースで拡大。
- 新たに地域・機能横断型のグローバル対応の戦略的統括組織を組成し、日本・中国・欧州の各拠点における営業・製造・開発面の有機的連携を推進。グローバル展開を一段と加速し、継続的な安定成長と世界トップシェアの維持・拡大に注力。



小型ブラシ

## 複合材その他製品

- SiCコーティング黒鉛製品は、LED素子製造用サセプターを始めとする化合物半導体向けを中心に、特にアジアでの需要が伸長。半導体向け(エピ工程)は200mmラインは調整続くも300mmが伸長しカバー。総じて堅調に推移し、今後も光デバイス関連市場の拡大を背景に、中期的には一段の成長を期待。
- C/Cコンジット製品は、主力の300mmウエハー製造用大型るつぼが引き続き拡大。工業炉関連用も中国・欧州を中心に伸長し、総じて大きく拡大。今後も大型るつぼは更に伸長し、核融合関連等の新規領域への展開も含めて、一段の成長が見込まれる。
- 黒鉛シート製品も半導体・化合物半導体(LED関連)・太陽電池向けを中心に需要拡大。新規用途となるヒートシンク関連も順調に拡大し、引き続き成長持続。
- オンサイトフッ素発生装置事業は、期待の半導体分野向けの本格展開に向けて、実機評価に入るべく鋭意推進中。



SiCコーティング  
黒鉛製品



C/Cコンポジット製品



黒鉛シート

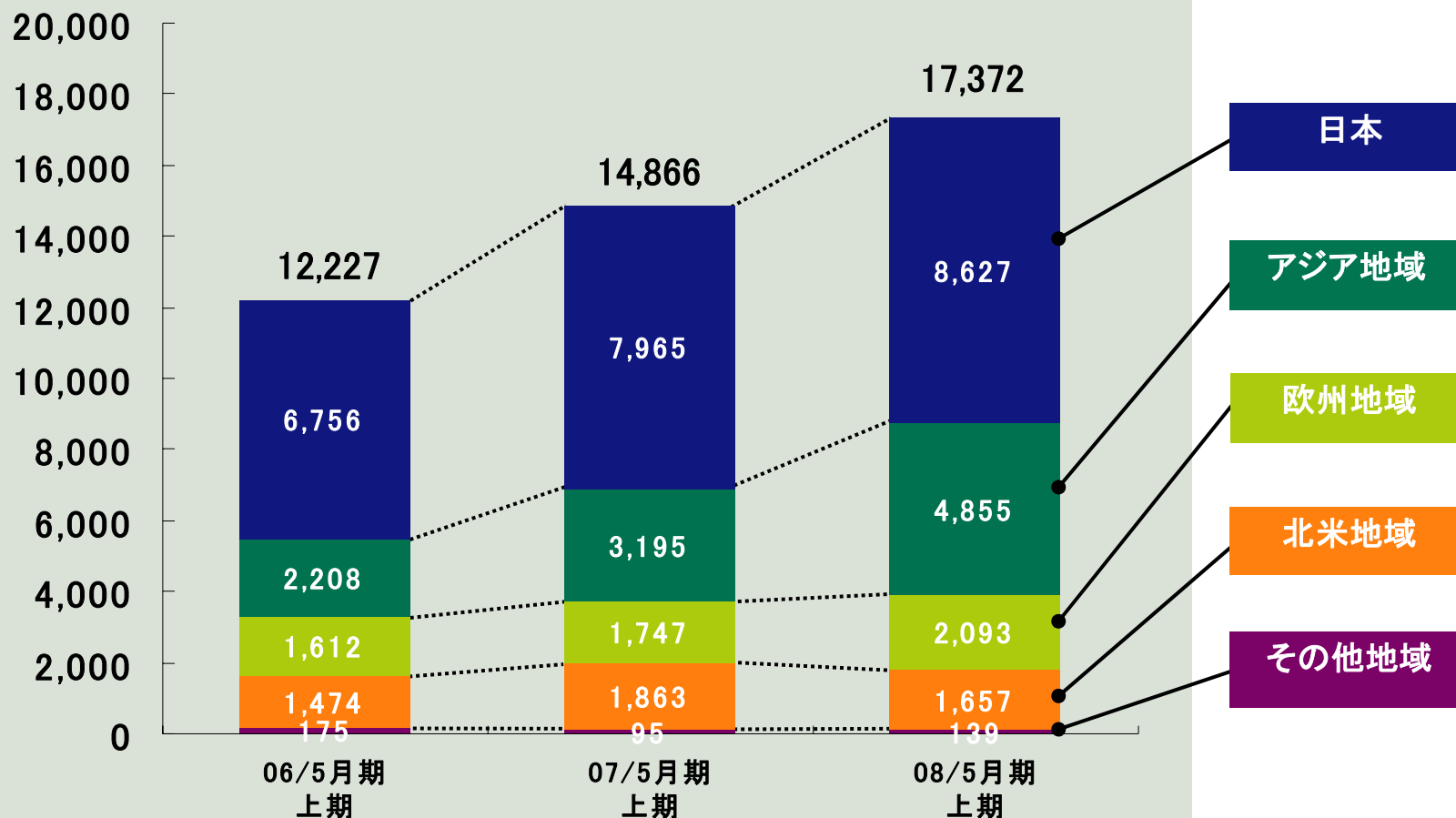


オンサイトフッ素  
発生装置



グローバル化の進展によりアジアを中心に海外売上高比率が拡大  
(06/5月期中間期 44.7% ⇒ 08/5月期中間期 50.3%)

(単位:百万円)



# 1-5. 2008年5月期中間貸借対照表(連結)

	(単位:百万円)			ポイント
	06/11月末	07/5月末	07/11月末	
<b>資産合計</b>	48,165	54,830	56,431	
受取手形及び売掛金	9,009	9,942	10,755	● 等方性黒鉛の能力増強等により、07/5月末対比1,103百万円増。
たな卸資産	6,207	6,573	6,989	
有形固定資産	18,299	19,633	20,736	
<b>負債・純資産合計</b>	48,165	54,830	56,431	
有利子負債	4,228	3,296	2,748	● 営業活動によるキャッシュ・フローを背景に有利子負債を07/5月末対比547百万円削減。
資本金	5,000	7,692	7,692	
純資産	33,411	41,386	43,983	● 当期利益2,491百万円による増加。
自己資本比率	68.7%	74.8%	76.7%	

# 1-6. 2008年5月期中間キャッシュ・フロー計算書(連結)

	(単位:百万円)		ポイント
	07/5 中間期	08/5 中間期	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	4,143	5,732	
現金及び現金同等物の 増減額	▲723	▲5,903	● 税金等調整前中間純利益、 減価償却費の増加により大 幅増。
現金及び現金同等物の 期首残高	4,867	11,558	
営業活動によるCF	2,485	3,007	●
投資活動によるCF	▲2,147	▲8,157	● 定期預金の預入、大型投資 に伴う有形固定資産の取得 により使用資金が大幅増。
財務活動によるCF	▲1,078	▲743	

# 2008年5月期業績予想(連結)

## 2-1. 2008年5月期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	07/5月期	08/5月期 予想	増減率
売上高	31,381	34,300	9.3%
営業利益	6,925	8,200	18.4%
(売上高営業利益率)	(22.1%)	(23.9%)	
経常利益	7,123	8,100	13.7%
当期純利益	4,439	5,000	12.6%
1株当たり 当期純利益	329円65銭	※ 241円12銭	

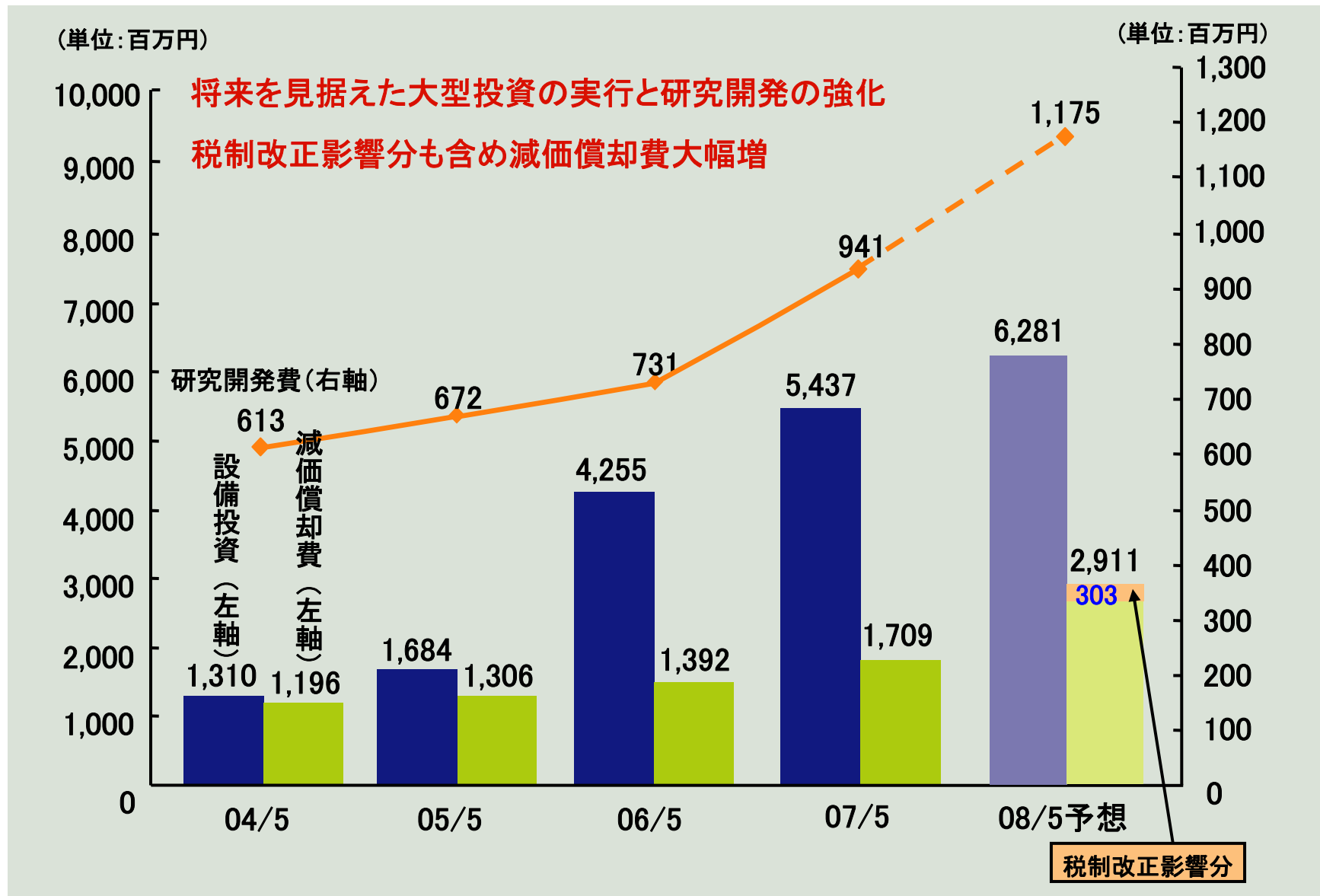
※2007年6月1日をもって1:1.5の株式分割を実施

### ポイント

- 一般景況としては不透明要因あるものの、当社を取り巻く状況は引き続き堅調に推移するとの認識から、当初予想と変更せず。
- 引き続き旺盛な需要の下、等方性黒鉛の生産能力増強(年11,000t体制の完成)とグローバル展開の加速により、更なる事業拡大と高付加価値化を推進し、引き続き高成長を確保する。
- 大型投資実行と税制改正に伴う減価償却費の大幅増(1,201百万円)と円高による目減りを、増収に伴う利益増と高付加価値化の推進によりカバーし、前期に引き続き増益を実現。

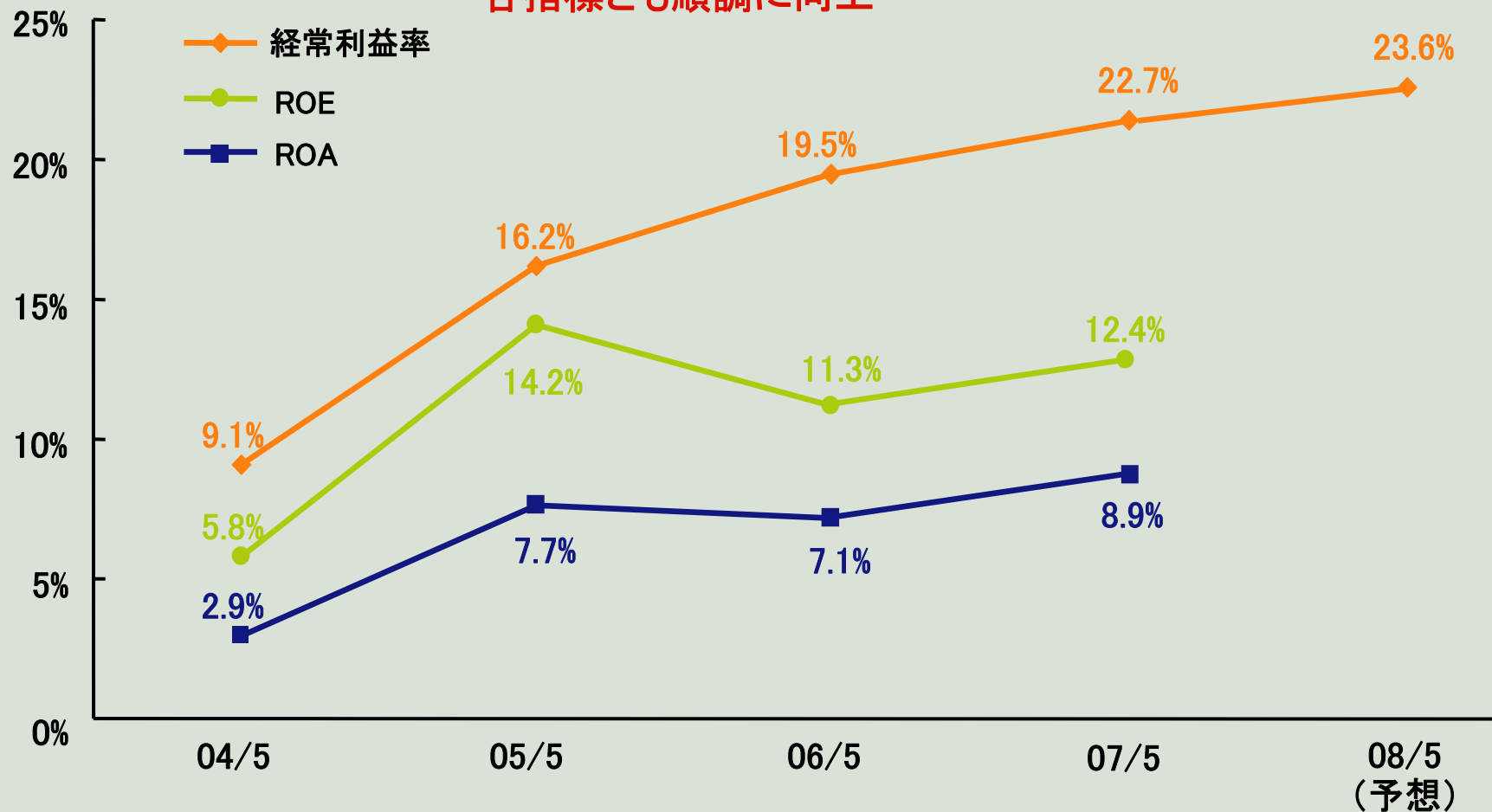
08/05月期の前提為替レート：110円/US\$、148円/EUR

## 2-2. 将来への投資 (設備投資・減価償却費・研究開発費)



## 2-3. 主要経営指標の推移(連結)

各指標とも順調に向上



# トピックス



- 太陽電池は主原料および製造方法により多様な種類があるが、カーボンはシリコン系・化合物系の製造において広く使用されている。
- 特に、太陽電池全体の約9割を占めるシリコン結晶系(単結晶型・多結晶型)においてはカーボン部材を多く使用する。

種類		特徴
シリコン系	単結晶型	発電効率が高い。使用実績が豊富。高コスト。
	多結晶型	発電効率が高い。使用実績が豊富。高コストであるが単結晶型よりは低コスト。
	薄膜型	シリコンの使用量が少なく、低コスト化の可能性あり。
化合物系		レアメタルを使用。低コスト化の可能性あり。
有機系		発電効率が低い。低コスト化の可能性あり。

#### 単結晶シリコン型太陽電池製造用

るつぼ



ヒーター



#### 多結晶シリコン型太陽電池製造用

角型るつぼ

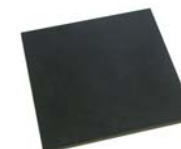


ヒーター

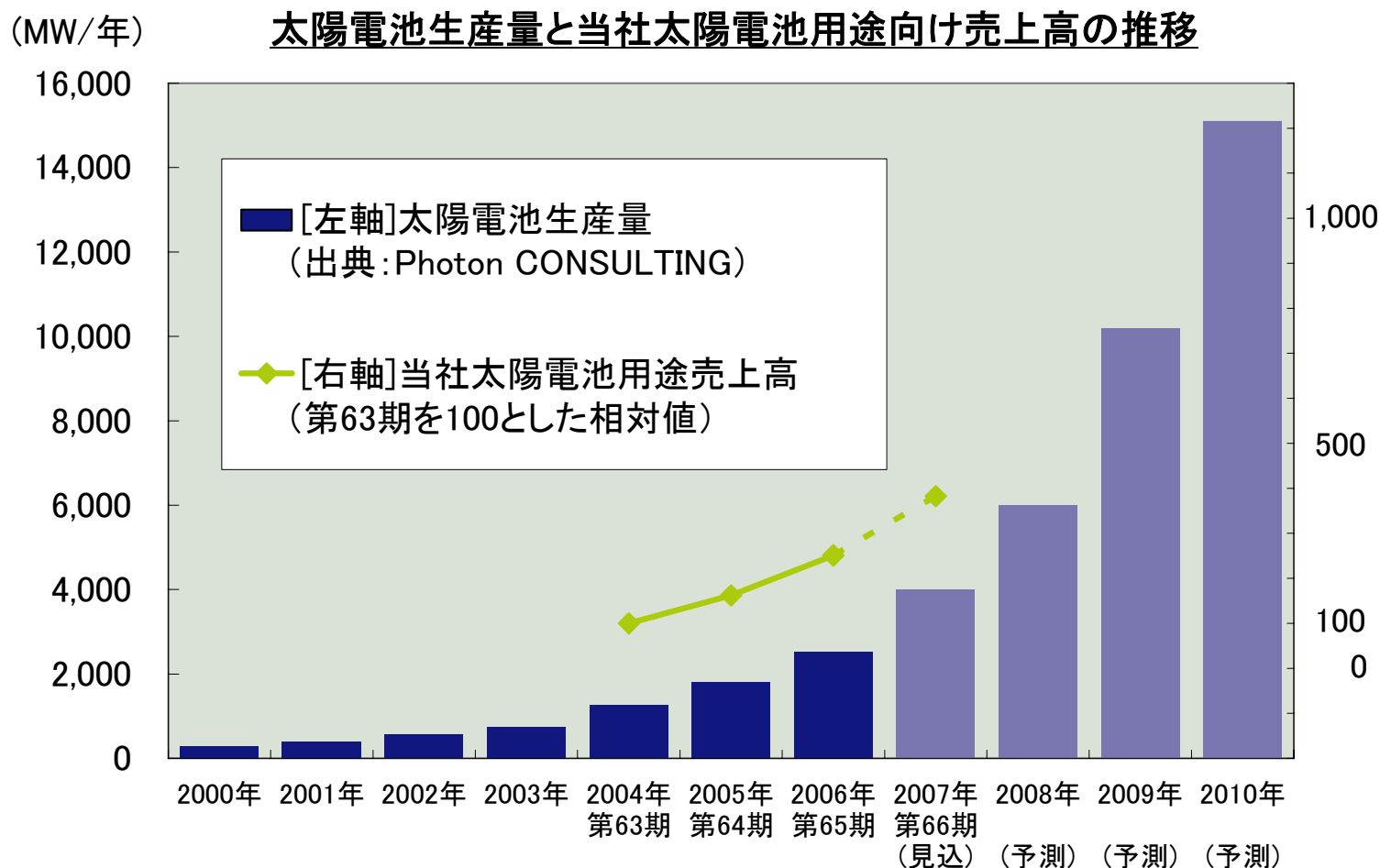


#### 薄膜型太陽電池製造用

カーボンプレート

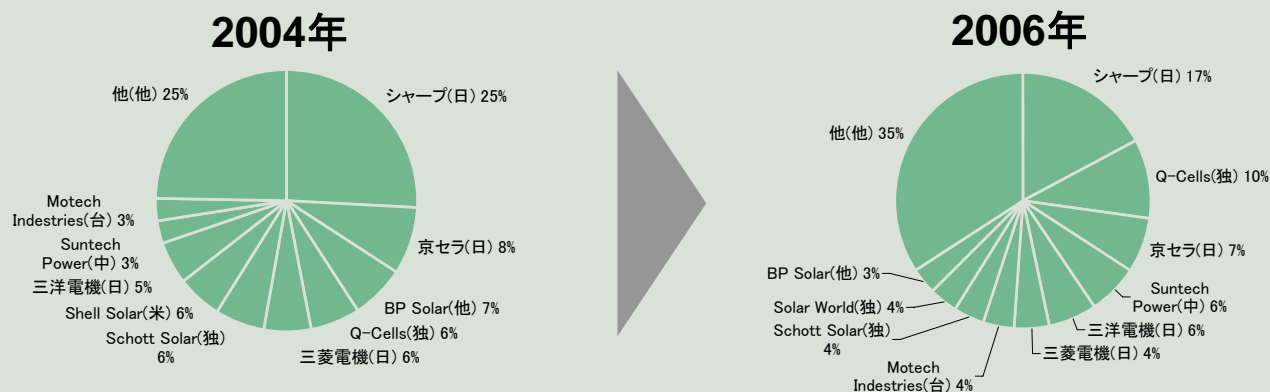


- 太陽電池製造用途向け売上高は、市場の伸びに合わせて順調に伸長。
- 売上構成バランスを踏まえながら、今後も市場の要求にできる限り応えてゆきたい。



- 地域別売上高は、太陽電池の主要生産地である日中欧の各地域において、満遍なく伸長。中国を始めとしたアジアおよび欧州における需要はますます拡大するのに加えて、米国においても需要が今後急拡大する可能性あり。

#### 太陽電池メーカーのシェア変動(2004年→2006年)



(出典: Photon CONSULTING)

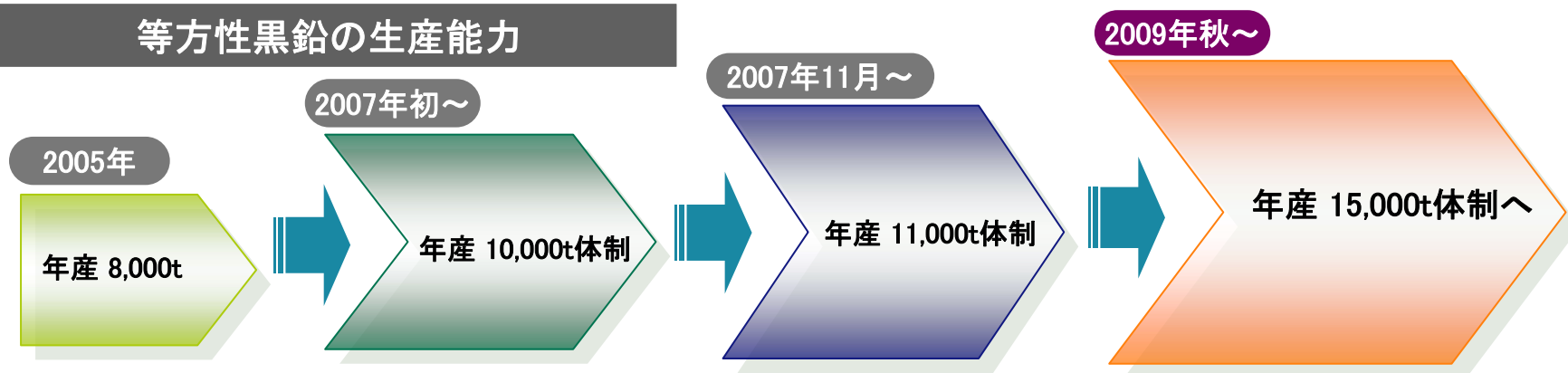
#### 当社太陽電池用途向け売上高の地域別推移 (第64期を100とした相対値)

	64期	65期	66期見込
日本	100	182	245
欧州	100	256	288
アジア	100	151	297
米国	100	119	106

## 3-2. 生産能力の増強 等方性黒鉛 15,000 t 体制を確立し一段の成長とグローバル展開を加速

- 2007年秋に年産11,000t体制が前倒し完成。逼迫する需要に対応しフル生産を継続中。
- さらに、①太陽電池用途、LEDを中心とする化合物半導体用途、原子力・医療用途等の新規成長分野の拡大 ②300mmウエハーを中心とする半導体用途、放電加工電極用等の既存用途の伸張 ③新興経済国を中心とするグローバル市場の拡大等に伴う、高機能・高品質な等方性黒鉛の世界的な需要拡大に呼応し、年産15,000t体制を確立する。
- 当社独自設計の設備と新しいプロセス・ノウハウを盛り込んだ新大型プラント(年産4,000t規模)を建設し、コスト・品質競争力を一段と強化するとともに、さらなる高付加価値化・差別化を推進する。

### 等方性黒鉛の生産能力



世界最大の等方性黒鉛工場  
諺間事業所

焼成棟



焼成炉



黒鉛化炉



黒鉛ブロック



#### 本社移転

- より一層の業容拡大とグループ経営の効率化を目的として、利便性・機能性に優れた新たな拠点を確保し、一層の業務の効率化と社内コミュニケーションの活性化を図るため、2007年12月より本社を大阪市西淀川区から北区梅田へ移転。
- なお旧本社は研究開発の拠点として「近藤照久記念東洋炭素総合開発センター」と改称し、研究開発部門の一層の体制強化を図る予定。

所在地 〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル10F



新本社エントランス

#### 国際太陽電池展PVEXPO2008に出展予定

- 中国・台湾・韓国などアジア諸国をはじめ、ドイツ・アメリカなど世界の有力企業が一堂に会する、太陽電池業界では世界最大規模の展示会「国際太陽電池展PVEXPO2008」(2008年2月27日～2月29日:東京ビックサイト)に出展。
- 太陽電池メーカーにおいて様々な製造工程で使用されている黒鉛製品の実物、パネルを展示し、当社の製品・技術の優位性をアピール予定。



(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: [ir@toyotanso.co.jp](mailto:ir@toyotanso.co.jp)